

# 週刊住宅

2013年(平成25年)7月8日

(4)

オーナー・投資家

当連載で、何度か利用する際のメリットとデメリットを紹介している不動産融資。この不動産融資を利用することで自己資金を最小限に抑え、投資資金に対する利回りを上げる、いわゆるレバレッジを効かせることができるのが、不動産投

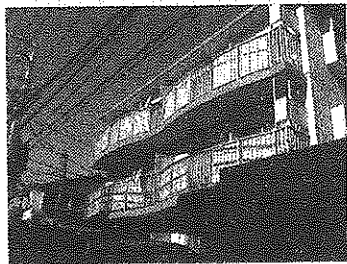
## CFネット流 嫁親奨

資ならではの魅力である。そこで、今回は13年7月1日現在の市場における金融機関の融資条件の動向を紹介したい。

最近、各金融機関の融資姿勢が以前にも増して積極的になってきた。当社では主に首都圏の物件を扱って

### アパートローン融資の最新動向

74



ではない。仕入れには苦勞が絶えず、とくに市場の過

## 1棟物融資に積極姿勢 中古の区分所有は依然慎重崩さず

いる。これは、自社で賃貸管理と建物管理を行うプロパティマネジメントの考えに基づいているためであり、この結果、自社で管理できないエリアは取り扱わないことになる。

広い首都圏といっても、そう簡単に投資指標と融資評価にあう物件があるわけ

望の方は慎重に金融機関を

1・9%〜1・975%の間で、融資期間は30年という内容だった。

この時、気を付けたいのは団体信用生命保険に加入

の取引実績のある金融機関をお持ちの方は、まずそちらに相談することをお勧めする。新規で取り扱いのない所でも、実績も含めて受け付けてくれることもあるからだ。



渡辺章好(CFネット  
アセットマネジメント事業  
部) 電話 03・3573・7  
440